

伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和5年度第1回）審議結果等

- 日時：令和5年10月12日（金）10時から
- 場所：伊勢市役所本庁舎東館5-4会議室
- 出欠：
  - 委員：別紙のとおり
  - 事務局  
環境生活部長（大桑）、環境生活部参事兼ごみ減量課長（林）、ごみ減量推進係主査（東條）、ごみ減量推進係主査（川合）、ごみ減量推進係（森井）
- 審議結果等  
事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。

●報告事項 令和4年度ごみ排出量実績について【資料1-1、1-2】

（委員 1）	資料1-1で資源回収量が439t（マイナス6.3%）減ったということで、資料1-2を見た時に家庭系ごみの資源物の推計が増えていくという予想になっている。資源回収量は増えたほうがいいと捉えるべきなのか、資源とはいえ減ったということは、ごみ全体として減っていると捉えて望ましい方向性なのか？
（事務局 1）	資源回収量はやはり増えることが望ましいと考える。令和4年度で下がった部分は、集団回収もコロナで活動を自粛していたのもある。コロナ以外の要因としては、資源の出し方で民間企業でも回収していただいているのもあり、集団回収量が減っている。今後は活動も戻っているので、回収量は増える方向で考えている。
（委員 1）	資料1-1で実績として、全体として2.3%減少となった表に資源回収量を含めると増えてほしいものが入って、統計の表現としてはいいのか？
（事務局 1）	総排出量としては現状が望ましいが、資源は資源で増えてくるに越したことはない。
（委員 2）	予想を見ていると資源回収量が1.5割くらい上がってくるので、当面の考えとしては良いと思うが、資源回収量は頭打ちである。この表ではずっと上がっていくように思うが、どのような考えか？
（事務局 2）	計画を作る際に国からの指針で、全体は下げて資源化率は上げるように言われているが、社会全体の動きでペットボトル等を始め軽量化が進んでいる。すると、資源化量物は減少していかざるを得ない。他市では、計画の際に資源化率は参考値とする動きがある。
（委員 2）	ずっと右肩上がりになっているので疑問を感じたが、理解した。

(事務局 1)	今後市内において製品プラスチックの回収をしていく。また、未利用資源で草・木を燃やさずに資源にするという考えもあるので、資源が増えていく要素があり、他市のように減少傾向ではない。
(委員 3)	家庭から出る資源物の量は減っていない。プラスチックのトレイやパックなどの量はむしろ増えている。(ぎゅーとらさんへ) 事業所さんの資源回収量はどんな状況なのか？単純に考えると減ってないと思うが。
(委員 4)	資源物は増えているが、トレイがどんどん軽量化している。回収個数は増やしたいが量は減っていくと思う。
(委員 5)	物価が上がってきている。例えばその時の設計で、500グラムのものが450グラムになり、ペットボトルが3%薄く軽くすると、多方面の話になり民間と公共との分配で、なかなか分析は骨が折れる。値上げができないから量を減らす形になっている。
(委員 3)	相反する現象が起きている。
(委員 1)	自分の家庭からは資源物を減らしたつもりはないが、先ほどの話のように業者さんや販売のほうで実は減らしていれば、購入量としては変わらなくても排出量が減ってるということもあり難しい。
(委員 6)	消費者としてはペットボトルもトレイも軽くなり、ビニール袋も薄くなった。自分のごみを捨てるものがないくらい少ない。ペットボトルもかさはあるが、量は減っており、排出量はみんな気遣っている。ごみ減量について「こうなるだろう」ではなく、こうなるように努力するのが良いのでは。
(委員 1)	どうしても統計上は量を見る。どれくらいの割合が資源化できるものであったかなどの努力がわかりやすい。今後の経済状況を考えると資源化量が増えるのは難しいが、資源物は増やしていったほうが良い。
(委員 7)	事業者さんがペットボトルや缶、トレイなどを集められているが、資源化率を出す時の計算方法がある。市内で事業者が取り組んでいる資源物をこの資源化率に入れていいのかどうか？自治体によって入れているところ、入れてないところがあると数字の比較ができない。国や県に確認して入れる・入れないは考えたほうが良い。資源化率が増えたほうがいと議論があったが、処理を考えると再資源化するのも多額の費用がかかるので、昔の3Rでリサイクルがトップに出ていたが、最近のリデュース(発生抑制)が先という考え。事業者が製造過程で軽量化の取り組みを、民間と業者で一体となって進める必要がある。肉などのラップが二重にかけてあり、客のことを考えて衛生的で便利な社会なので、過剰包装は致し方ない。官民一体となって総量を減らすのが望ましい。

(事務局 3)	燃えるごみの中に資源化できるものがあれば、資源化したほうが良い。資源化が限界にきているのであれば、資源物を減らす方向になるが、今の段階は資源化できるものを優先して、上げる方向で考えている。
(委員 7)	ペットボトルは清掃工場で、有価物として取り扱っているが、社会情勢によっては逆にお金を払わないと再資源化できないということも当然出てくる。ペットボトルの軽量化などは大きな取り組み。発生抑制で情勢は変わってくる。
(委員 8)	脱炭素の関係でいろんな市町で燃えるごみを「燃やすしかないごみ」という表現にしている。緊迫感があり、市民に意識を高めてほしいと気持ちをこめた命名に変えたと聞いている。どうしても燃やさなければいけないごみを、できるだけ減らしていくよう市で頑張ってもらいたい。資源ステーションで聞いた話だが、分類の仕方がわからない、冊子の読み取り方がわからないといった声がある。ガイドブックを作っていただく時に見にくくなるかもしれないが、さらに細かく薬の容器包装など、細かい表現がお願いできればと思う。
(事務局 1)	プラスチック製品の改正をしているので、意見を参考にしていく。
(委員 3)	詳しく表記しても見ないので、大きくわかりやすくしないと。見ない人がいる中で、見てもらうにはどうしたらよいか？細かいと見ないので、興味を引くようにするのが大事。
(事務局 1)	品目の表現は難しい。日頃たくさんのお問い合わせがあるので、意見を集約してわかりやすい工夫が必要。
(委員 6)	今の若い方はスマホで調べる。啓発で幼稚園等に行くが、子供向けに子供が使うものでごみを分ける。啓発に行った先の相手によって、説明の仕方を変える方が効率が良い。年齢が高くなると買う物や使う物が変わる。その人によって出るごみが違うので、それに合わせて配布物を作れば良いのでは。
(事務局 2)	ページが限られているので、見やすくしながらわかりにくいものは細かく載せるなど意見を参考にしたい。
(委員 7)	度会町さんがゼロウェイスト宣言をされて、小学生にいろいろ説明して分別マイスター制度の取り組みをしている。小4の子供さんが清掃工場に見学にみえるが、その際に「家に帰ったら分別の仕方を見てください」と伝える。子供は親のごみ出しを見て、大人も直すきっかけになる。小4は副読本でごみのことを習うので、子供さんを味方にとすると効果があると思う。
(事務局 1)	環境教育が一番効果的。分別が基本なので工夫しながら啓発を強化したい。

●報告事項 令和5年度ごみ排出状況【資料2】

(委員 5)	観光客が増えているわりに、事業者や許可業者のごみが減っているが、現状の分析は？
(事務局 2)	コロナ以降、減少は続いているがここまで減っているのは、4市町含めて同じような傾向なのか？
(委員 7)	コロナの影響が、どこへどう出ているのか分かりづらい。コロナが始まると、飲食店の時間短縮で許可業者がぐっと減った。昨年後半から戻りつつあるが、まだ減っているので人口減少もここまで影響しないと思うので、もうしばらく様子を見ないと正直わからない。良い傾向ではあるが。
(委員 5)	物価高も要因なのか？
(事務局 2)	物価高で買い控えもあり、食品ロスが出ないのもある。
(委員 3)	スーパーさんは売り上げが上がっている？
(委員 4)	値上げがあったので、売り上げは伸びているが、利益は減っている。食品ロスはよくないが、かなり厳しくしている。飲食業者はかなり突き詰めてやっていると思われている。
(委員 8)	飲食業者は少量メニューが増えている。スーパーも値引きをよくしてもらおうようになっているので、売れ残りは少なくなっているのか？
(委員 4)	売れ残りは減っている。コロナが始まってから、お客さんの時間帯の入りが違う。夕方からお客様が入らなくなり、閉店時間も変えた。
(委員 5)	値上がりの分、客単価が上がっている。昔はコンビニで夜に商品が売り場からなくなるのは「チャンスロス」と言っていた。食ロスが出てもいいから、どのタイミングでもお客さんが来た際には商品が売り場に並ぶようにしておくという考え方があったが、食品ロスを減らそうという考えが浸透してきた。
(委員 7)	許可業者は昨年から122t減で燃えるごみが大きく減っているが、業者は飲食店やスーパーの残渣が多いので、スーパーさんなどの食品ロスの取り組み成果が出てきている。市民からのごみも食品ロス削減の効果プラス、値上がりによる買い控えもあるのでは。
(委員 1)	コロナが明けても、ライフスタイルがすぐに戻るわけではない。サラリーマンの方が、定時退社で早めにスーパーに行くことが続いているのかもしれないが、それは良い影響である。

●審議事項 令和5年度主な取組み施策の進捗について【資料3】

(委員 8)	自治会、市民への周知の強化とあるが、どうしてごみを減量するのか？大元が地球温暖化を防止することを伝えてほしい。地球の未来のためと市民に知っていただくのが大前提。説明の冒頭に必ず入れていただきたい。子どもたちに正しい情報を知らせるべき。
(事務局 1)	ワークショップや自治会等でも周知していく。カーボンニュートラル宣言を市でもしていくので、環境分野から考えたら脱炭素の中のごみ減量・資源化になる。分別ガイドブックやごみカレンダーも、脱炭素を意識してキーワードを入れていきたい。
(委員 2)	生ごみ減量ワークショップを開催して、そこでどのような意見や考え方があったのか、自治会への説明はどのような意見が出たのか、お聞きしたい。
(事務局 2)	ワークショップでは3種類の水切り体験をしてもらうことで、「こんなにごみが減るんだ」と実感していただいた。来られる方は意識が高い方なので、意見は厳しかった。「まだまだ啓発が足りない」、「本気でやったほうが良い」など。一人ひとりの意識をどう変えていくが重要。 プラ製品の説明会は、すでに容器包装を実施しているので、難しい質問は出ていない。
(事務局 1)	行政としては、周知をしているが伝わりにくい。紙を見ない人もいるので対話型、体験型として情報発信を考えた。例えば生ごみ処理機モニターでは、キエーロ(消滅型)などをたくさんの人によさを知ってもらいたい。ワークショップも少人数ではあったが、実際に水を絞って効果をみもらった。プラ製品については、今年の4月から15自治会で先行実施しているが、中にはペットボトルや金属等が入っていたりする。
(委員 2)	参加型にやり方を変えて、市民をどうやって巻き込むか重要。意識改革をして、いろんなアプローチで考えていただけるとありがたい。
(委員 6)	自治会や市民の周知で、プラ製品の説明会の際に、それだけではなく高齢者が扱うものに特化して説明するのがよい。 今年の6月に行政チャンネルに出演させていただき、1か月間1日に8回放映されたが、行政チャンネルはあまり見られていない。
(事務局 1)	プラ製品の説明は全自治会を回る絶好のチャンスなので、他の啓発もしている。水切りや市の現状を出して、興味を引くようなアナウンスをしていく。
(委員 6)	行政だけで決まったことをするだけではなく、環境会議や地域の人と一緒に入っても良いのでは？
(事務局)	行政チャンネルはユーチューブでも放映している。全庁的に発信の

局 1)	仕方が弱いので、専門アドバイザーにアドバイスをもらっている。
(委員 3)	自治会に伝えたら、全て伝わるといったら間違い。まち協など多方面で働きかけしないといけない。

●審議事項 主な施策（予定）について【資料 4】

(委員 2)	循環型社会を考えると、堆肥化をもう少し前からやっておく必要がある。草などを市内の民間施設へ搬入とあるが、具体的には？
(事務局 2)	現在は清掃工場へ公用ごみとして搬入しているが、処分業の許可業者に持ち込む予定。
(委員 2)	将来的には堆肥化したものを無料配布することを見据えて、市の土地へ置くことを検討願いたい。
(事務局 1)	脱炭素の観点から、方向性を切り替えてリサイクルするやり方を進めたい。これまで公共で燃やしていたものを資源化していく取り組みで、堆肥化の市の施設を作ったらよいと言われるが、作るにあたっての処理コストやニーズがどれくらいあるのかという点もある。しかし、いろんなごみが集まると塩濃度が高くなり、肥料として使われにくいという実態もあるので、課題を整理したい。

●審議事項 ごみ分別ガイドブックの更新について【資料 5】

(委員 8)	資源ステーションで乾電池を見ると、ほとんどの人が絶縁していない。事故のことがあるのでPRを強化してほしい。また、総菜等のパックについている紙の値札が取れなかったら燃えるごみと考えている人が多い。市からの封筒は紙の窓にして進めていただきたい。
(委員 6)	段ボールを紙ひもでしばるとあるが、家にあまりないので、市民に周知できるのか？
(事務局 1)	全てを資源にしてムダなくということだが、「推奨」ということにしている。
(委員 5)	紙ひもはしばりにくいので、新聞紙は難しいと思う。
(委員 1)	紙ひももスーパーさんなどで気軽に買えるように設定したら、使っただけの方は増えるのでは。

●その他

(事務局 2)	審議会の委員さんを令和 6 年度～7 年度の方をまた募集する。これで終了いたします。本日はありがとうございました。
------------	---